

F M の書棚 から

新連載



松成和夫氏

有限会社プロコード代表取締役
一級建築士
認定ファシリティマネジャー (CFMJ)
ユニバーサルデザインコンソーシアム会員

ファシリティマネジメント (FM) の第一線で活躍する人々は、どんな本を読み、どんな情報に触れることで、自分たちの知識を深めているのでしょうか。新しくスタートする「FMの書棚から」では、日本を代表するファシリティマネジャーに、毎回、ご登場いただき、ファシリティ戦略を考えるうえで役に立った本や、これからFMを学ぶ人に推薦できる本を紹介してもらいます。

1977年 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1987年 株式会社ニュー・オフィス・エイジ設立 専務取締役
オフィス計画・ファシリティマネジメント (FM) に関する研究・執筆・編集活動を展開
1993年 有限会社コーポレートデザイン研究所設立
FM関連の調査受託、コンサルティング受託事業などを展開
1999年 有限会社プロコード 取締役 FM総合計画事業部長
2001年 有限会社プロコード代表取締役に就任

IBMも順当に情報化戦略を進めたわけではない



『巨象も踊る』
ルイス・ガースナー／著 山岡洋一、高遠裕子／訳
日本経済新聞社
2,500円 (税抜)
2002年12月発行
ISBNコード: 4-532-31023-7



『ネクスト・ソサエティ
歴史が見たことのない未来がはじまる』
P.F. ドラッカー／著 上田惇生／訳
ダイヤモンド社
2,200円 (税抜)
2002年5月発行
ISBNコード: 4-478-19045-3

『巨象も踊る』の原題は「Who says elephants can't dance?」。直訳すれば「象が踊らないと言ったのは誰だ?」といったところでしょうか。著者のルイス・ガースナーは、1993年から2000年までIBMのCEOを務め、情報化戦略を積極的に進めることで、この巨大企業を再生させた敏腕経営者です。

私は1980年代後半からオフィス専門誌の編集を手がけていた関係でFMに携わるようになり、この分野の先進国である米国のオフィス事情に高い関心を持ち続けてきました。特にFMとITの融合は重要なテーマだったため、世界最大のコンピュータ企業が社内の情報化をどのように進めていったのか興味があったのです。

ガースナーがIBMのCEOに就任した1993年頃から、米国の拠点でノンテリトリアルオフィスを採用するようになっていました。この本によると94年にはインターネットの利用を促すのですが、おもしろいのは、その時点では彼はまだ、ネットワークの普及が社会を大きく変えるとは信じていないのです。その後も「e-Business」という言葉を初めて使うなどITの先駆者のように見えながら、本人は「(これらの戦略は) 大きな賭けだった」と述懐する。つまり、どんな優秀な経営者であっても、どこかで大勝負をしなければ成果はあげられないということがわかります。

翻って日本を見ると、米国に比べてほしい6年遅れでビジネスのIT化が進んでいるように思います。それだけに、本書を読んで、どのタイミングで「賭」の決断をするのか、考えるのは大事なのではないでしょうか。また彼が掲げている「リーダーシップの3条件」は、プロジェクトを推進するファシリティマネジャーには必読です。

FMの方向性も大きく示唆する未来分析書

ドラッカーの近著は、彼のものにしてはめずらしく読みやすい内容になっていますね。「20世紀は工業社会であり、21世紀は知識社会に移行する」という分析は、非常に説得力があります。ちなみに、私は2003年2月に発売した『総解説 ファシリティマネジメント』の編纂に携わりましたが、この新しいFMガイドブックが知識社会を強く意識した内容になったのは、ドラッカーの主張に共感するところが多かったからです。

これからは個々が高い「知」を身につけ、活用していかなければ、社会において望むポジションを得ることはできません。そのことを認識するためにも、ビジネスマン全般に、ぜひ読んでほしい本ですね。

「巨象」企業 IBM の情報化戦略は
知識社会の到来を予測していた?